

幼稚園衛生の特色

醫學博士竹村一

學校衛生とは「衛生學の一分科であつて學校なる環境内に生活する學童及教師の健康を保全し且之が増進を圖るものである」が幼稚園衛生も云ふ迄なく學校衛生の一部分であるが、私は之を學校衛生より離して別に幼稚園衛生と云ふものを提倡したいと思ふものである。

從來から學校衛生は時に教育と云ふ主體と離して特別の事實として取扱はれておる傾向がある。然し學校衛生なるものは必ず教育と云ふ事が主體であつて、其副體として存在するものである。或論者は教育と云ふ範圍の一部分であると云ふが、私はその論者には賛成し兼るものである。即主體の孰れの部分にも必副ふた處のものであつて、學

童の教育には孰れの處を切り取るも必そこには學校衛生と云ふものが存在すべきであると思ふ。之は要するに心身の教育と云ふ事が教育の對象である以上明白な事實である。

さて幼稚園衛生は更に斯うした學校衛生に對する考へ方を一步進めて深く調べてみなければならぬ。

幼稚園に於ける幼兒の生活は學校に於ける學童の生活とは多分に異つた處がある。例へば學校では一ヶ年間に定められた學課の時間的配當がある。或幼稚園では一ヶ年の保育細目を設けて然も毎日の時間割を作つてそれに従つて學校式にやつておる處もあるかも知れないが、然し私の考へて

おる幼稚園と云ふものはそんなものでないと思ふ。日々が遊戯の生活であり現在がその幼児に對する最も尊重さるべき教育の時間であり、又幼児の要求を充たすべき時間であると思ふ。一ヶ年に終了すべき細目の必要もなければ一日を必四十分宛保育室に追ひ込む必要もなく、唯子供らしき生活をさせその伸びるべき善き芽をのばせれば足れるのではないかと思ふ。だから教材の分配も教材の進度もなければ、その幼稚園に於ける全生活が知情意すべての全人的な教育時である。ここに於て私は幼稚園には別に教授衛生もなければ時間割に對する配當の心配もないと思ふ。

次に學校では體操の時間、算術の時間、讀方の時間・修身の時間と云ふ様に稍知育德育體育と云ふ様に判然とは云ひ難いが多少區分されておる。前者を教材に對する量的考察とするならば之は教材に對する質的考察とも云へよう。幼稚園には此質的區分を考へる事は出來ん。勿論文部省令で觀察談話等々と區分はされておるが、然しそう

は幼兒の遊びとして取扱はるる事で換言すれば幼兒の生活として取扱ふ事で之を各項目に判然と區劃して考へる時には私は幼稚園教育の生命がなくなると思ふ。

更に幼稚園は學校よりも一層家庭との連絡を必要とするものである。その點に於ては母の爲の家庭衛生と一層の協力が必要である。

右の様な點を考へて來ると學校衛生と幼稚園衛生とは種々の差異を見出して來るものである。

そこで私は幼稚園には幼稚園獨特の衛生を考へたいと思つておる。即幼稚園に於ける全生活を保健的に體育的に衛生教育的に衛生監督的に立案計畫したいと思つておる。

衛生と云ふ事が生活から離れて考へられる時に何の初果もない。私が立案した動的學校衛生と云ふものは要するに此點に付て從來の靜的な考へ方を一變して新しい方向を提倡したつもりである。此動的な考へ方は最も幼稚園衛生に適用されるものであると思つておる。